



しょうまん

小満（20日）… 園庭の緑がぐんぐん膨らみます …

私の好きな言葉に、「春は芽のもの、夏は葉のもの、秋は実のもの、冬は根のもの、これ全て自然からの贈り物」というものがあります。この時期、春に芽吹いた小さな芽や生き物などの命が、太陽の光を浴びてぐんぐん成長しています。小満とはまさに、その成長が際立つ季節です。日本は四季の移り変わりがとても特徴的で、長年にわたってそれに応じた生活を工夫する中で、豊かな文化が育まれてきています。季節の移ろいに気付くセンサーの感度を高められたら、さらに潤いのある楽しい生活ができるのではないのでしょうか。

<蚕起食桑 かいこおきてくわをはむ 5月20日～25日>

小満の初候は「蚕起食桑」です。私の故郷は養蚕が盛んだった地域で、農家の方は蚕のことを「お蚕様」と呼んでいました。近所には桑畑もありました。ところで、蚕やアオムシなどは苦手な人もいるでしょうが、小さな卵から産まれた幼虫が、少しずつ大きくなっていく様子を見るのはとても興味深いものです。幼稚園には、みかんの木を数か所に植えてあります。アゲハチョウは柑橘系の葉っぱに卵を産むので、子どもたちが直接自然との関わりができるようにする教材として、アゲハチョウを呼び込むために植えて管理しているのです。

<裏庭に移植したみかんの木は、アオムシの家…>



中央に小さく見える黄色い点が、アゲハチョウの卵です。ほんの1mmほどの小さな命です。産まれて間もない幼虫も、数匹発見しました。



数日すると、こんなに大きくなっていました。葉っぱをたくさん食べたことがわかります。2～3回は脱皮した3～4齢幼虫だろうと思います。黒に白の模様は鳥のフンに擬態して、食べられないように身を守っていると言われています。もうすぐ、さらに脱皮して皆さんがよくご存知の緑色のアオムシになるはずです。★



畑のそばのプランターでギューギュー詰めになっていたみかんの木を先生たちが、春休みのうちに裏庭の植え込みに移植してくれました。狭いプランターから地植えにしてもらって、今は伸び伸びと育っています。隣はお礼肥を与えたチューリップです。葉が枯れ始めています。



★ところが、土日を含んで、月曜日に楽しみに行ってみると…。どこにもいません！あちこち探してみましたが、全く姿が見えません。黒い幼虫も緑の幼虫もいませんでした。実は、残念ながら2週続けて同じ出来事があったのです。きっと鳥の餌食になったのでしょう。

がっかりしましたが、自然は人間の思いどおりにはいかないことを学ぶことも、幼稚園で自然と関わる大切な意味なのです。この次に見つけたときは、飼育ケースで育ててみたいと思います。